

悠久の「王朝街道」を企画の目玉に 国宝級の文物が集中する黄河流域の中原大地

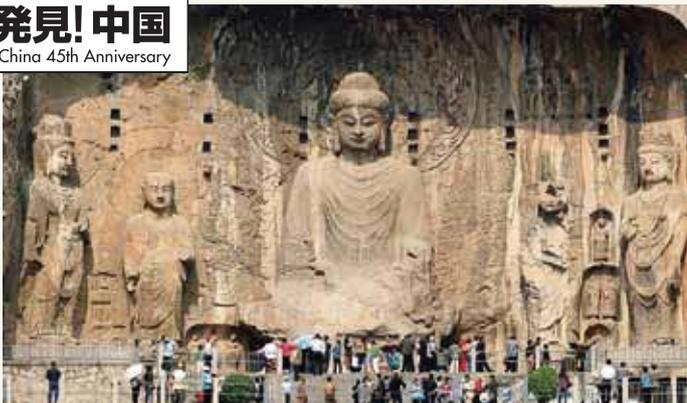
母なる大河・黄河沿いの肥沃な地には、4000年の昔から数々の都が繁栄してきました。なかでも、西安から河南省の洛陽、鄭州、開封といった都市が連なる黄河中流域の中原大地は、20

以上もの王朝が興亡を繰り返してきたことから、国宝級の文化財や博物館所蔵文物が集中しています。中国国家観光局駐日本代表処では今年3月、JATAなどが後援する「中国ツアープランニングコンテスト2016」の受賞者を対象に河南省への視察旅行を実施し、若者世代にもその魅力を実感してもらいました。同コンテストは、若年層に

対して中国旅行に関連する情報を提供し、選択肢の広い中国旅行について周知を図ることを目指しています。

日本語ガイド同乗のバスも運行

古くから「王朝街道」と形容されてきた悠久の歴史と絢爛たる文化が息づく中原大地では現在、鄭州／西安間を結んで高速鉄道が開通しているほか、2015年からは中国国家観光局と河南省観光局の支援により「王朝街道エクスプレスバス」も運行されています。少人数でもツアーが催行できるように、鄭州・洛陽・三门峡・西安を1泊2日で



洛陽の龍門石窟は5世紀から多くの王朝が開削と造営を繰り返しました



唐代における武勇伝でも知られる少林拳



鄭州の河南博物院(河南省研修旅行参加者撮影)



少林寺歴代高僧の墓地である「少林寺塔林」



1900年以上の歴史を持つ白馬寺(洛陽)

歴代王朝文化の結晶・龍門石窟

河南省の西部に位置する洛陽は5000年の歴史を誇り、東周・後漢・三国の魏・西普・北魏などが都を置いたことから「九朝の古都」とも呼ばれている。

運行しているバスには、日本語を話せるガイドも同乗しており、高速列車と組み合わせることで活用することが可能です。省都・鄭州の西約70キロに位置する登封では、5世紀に創建された古刹である少林寺が2010年に世界遺産となりました。インドの僧・菩提達磨が禅宗を開いた少林寺の僧徒らが少林拳により唐の太祖李世民的天下統を助け、少林拳を天下に知らしめています。



「清明上河図」世界を再現したテーマパークの清明上河園では、壮大な水上ショーも繰り広げられます(写真下は河南省研修旅行参加者撮影)



洛陽の東西大街に通じる麗京門

ます。中国歴代王朝文化の結晶と讃えられる龍門石窟、中国に仏教が伝来して初めて建立された仏教寺院の白馬寺、夏王朝から宋代までの文物が収蔵されている洛陽博物館など、歴史的な名所旧跡も尽きません。鄭州から東へ70キロほどの開封は、10世紀から12世紀までの北宋時代には、約150万人もの人口を抱える世界最大級の都市となり、その繁栄ぶりは北宋の画家張昉が「清明上河図」などに描いています。清明上河園は往時の姿をそのまま再現した夜のテーマパークで、ショーアップされた夜の舞台も人気を集めています。